

尾去澤鑛山の慘事に就て

尾去澤鑛山の鑛滓沈澱池堰堤決潰し、ために二百十數戸を泥流の中に埋没せしめ、行方不明者を加へ五百の生命を斷ち、此の世の地獄さながらの慘狀を呈した椿事は、まことに驚愕の限りにして、今更悲惨とも凄慘とも形容しがたき事件であるが、それが必ずしも不可抗の災禍とのみ云はれないのではないかと云ふ疑が、監督官廳側の憤激の言葉の裡にうかがはれるのは甚だ遺憾とせねばならぬ。

決潰した堰堤は、單に粘土に玉石を混入して 200尺の高さを積み重ねたものであつたと云ふが、斯る構造の決潰すべきは我等をして云はしむれば寧ろ當然なのであつて、其危險に就ては當業者は勿論監督官廳も豫め之を知つて注意を與へてゐたと云ふのである。然らば何故に慘事を未然に防ぐ事が出来なかつたのであらうか。傳へられる如くそれが鑛山側の手落であつたとしたら、問題は實に重大にして、到底被害民の救恤慰藉位を以て責を免がるべきものではない。

我等は茲で其責を問はんとするものではないが、この事件が一般社會に對して與へた異常なる衝動に就て深く憂を抱かざるを得ないものである。今や我國に於ても、水力發電、上水道等のため高堰堤築造の必要に迫られつゝある折柄なのであつて、尾去澤のダム崩壊事件が、構造の如何を知らぬ一般大衆に對して、徒らに堰堤なるものゝ危險性のみを深刻に認識せしめた結果は、今後益々計畫せらるるであらう高堰堤の築造に當つて、支障を來たさざるなきか甚だ疑はしいからである。假に之を杞憂とするも、此機會に於て善後措置に萬全を期し、事件の真相を明かならしめ、ダムに對する一般大衆の不安と恐怖の觀念を一掃する事は極めて緊要事であらう。

禍を轉じて福と爲すと云ふ諺があるが、今回の災禍は到底轉じて福と爲し得る類ではない。たゞ望むらくは之を前車の例として、今後築設せらるべき堰堤の施工に萬全を期し、現存堰堤の保守に對しては、監督を一層嚴にし、再び斯る不祥事を惹起する事なきを期する事之である。然して又、今回の如く危險が豫め知られ又は知り得べき場合當業者として之を防止すべき責任ある事勿論であるが、國家の監督權を統一強化し、利水事業にまれ鑛業にまれ、權威ある監督の加へられん事が要求せらるゝのである。

要するに尾去澤事件は、之を一鑛山の出來事として簡單に處理せず、住民に危急を告げた警鐘を以て、全國民に對する警鐘となし、今後に處して行き度いのである。かくしてこそ五百の犠牲にも其意義が生じ、其靈を慰むる所以となるであらう。